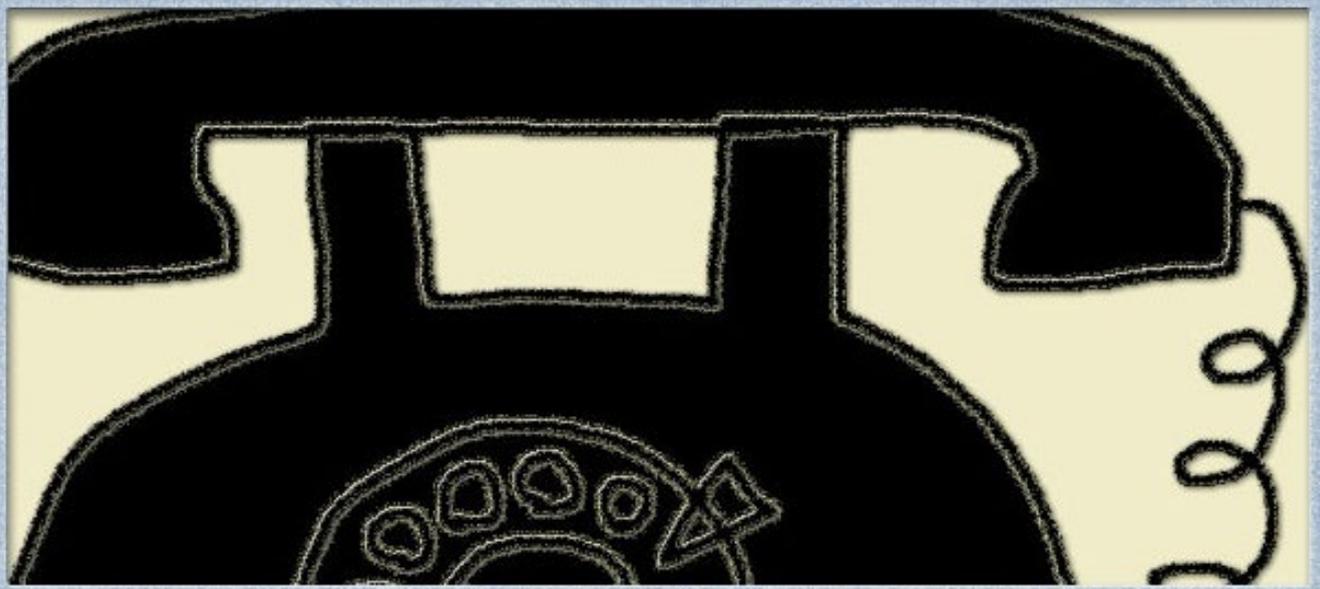


西田春彦



想い出話をしくは
個人的な備忘録
(ベータ版)

思い出話もしくは個人的な備忘録（ベータ版）

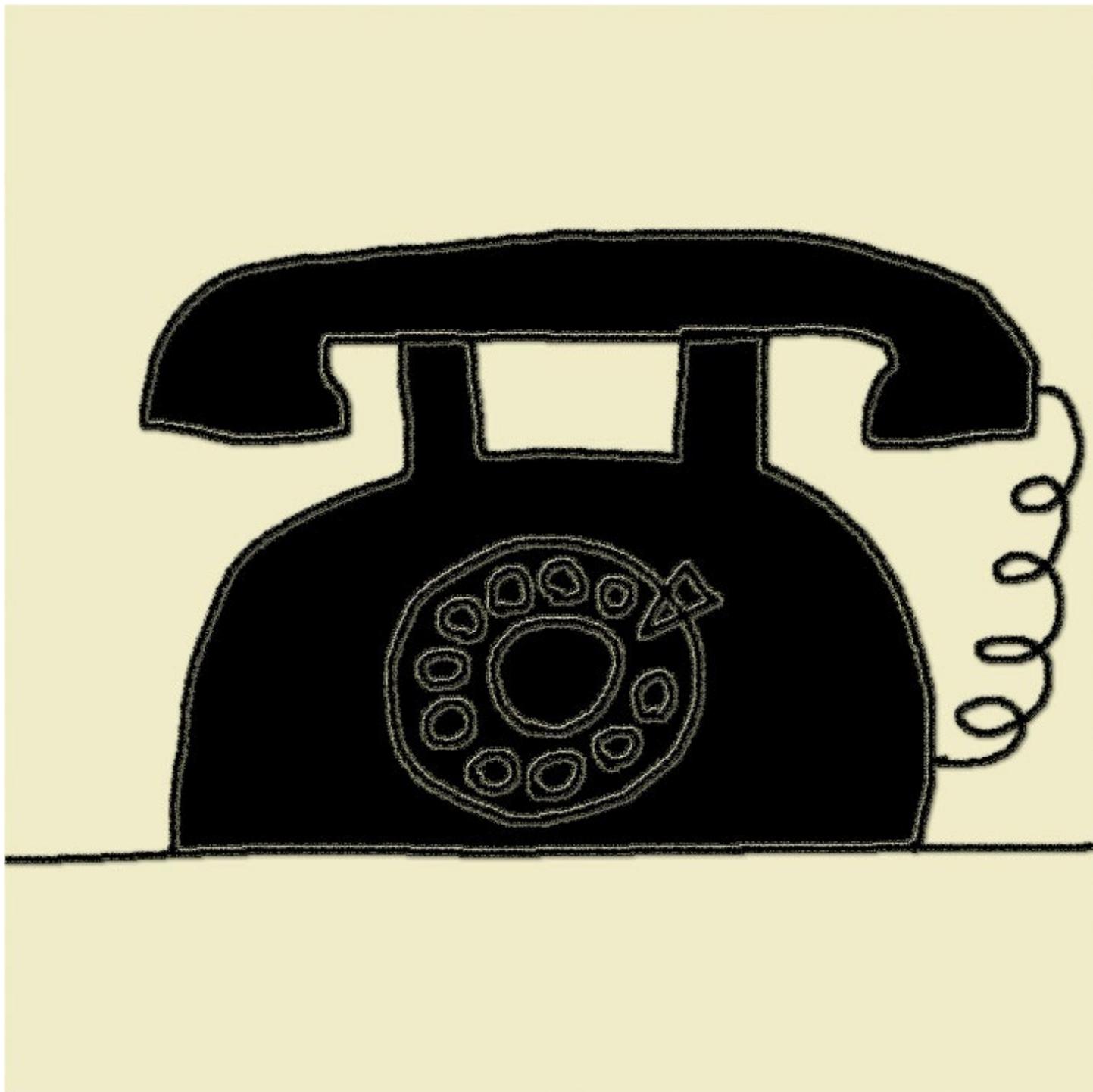
著者：茜町春彦

概要：

20世紀の終わり頃の話を書き留めて置こうと思いましたが、だいぶ記憶が薄れてきており、日時や場所や名称や諸々のことが、あやふやです。調べれば正確なことは分かると思いますが、あやふやな所はあやふやなままにしておきます。自分自身のために書きましたので他人が読んで面白いと思う話は多分無いでしょう。思い出したことから少しずつ書き足して改訂して行くつもりですが、いつ完了するのか分かりません。改訂するかどうか分かりませんが・・・

登場人物などの名称について：

人の名前などはA君などとアルファベットを使用して表記しますが、別の話ではそれぞれ別人などを示しています。ある話のA君と別の話のA君は別人と言うことです。『君』は男性を示し、『さん』は女性を示すことにします。



《予備校》

僕とA君とB君は大学受験に失敗し浪人することになった。3人で地元のC予備校に通うことにした。ともに理科系。授業料は20万円だった。入学式が東京体育館で行なわれた。3人で参加した。昼食に弁当が支給された。昆布巻がひとつ入った赤飯だった。

独りでは息詰まる浪人生活も予備校まで行けば二人がいたので救われた気がした。一年が過ぎて受験を終えて進学先もほぼ決めた時、一本の電話が掛かってきた。

「D大学の事務課です。補欠になっていますが、入学される意思是、ありますか？」

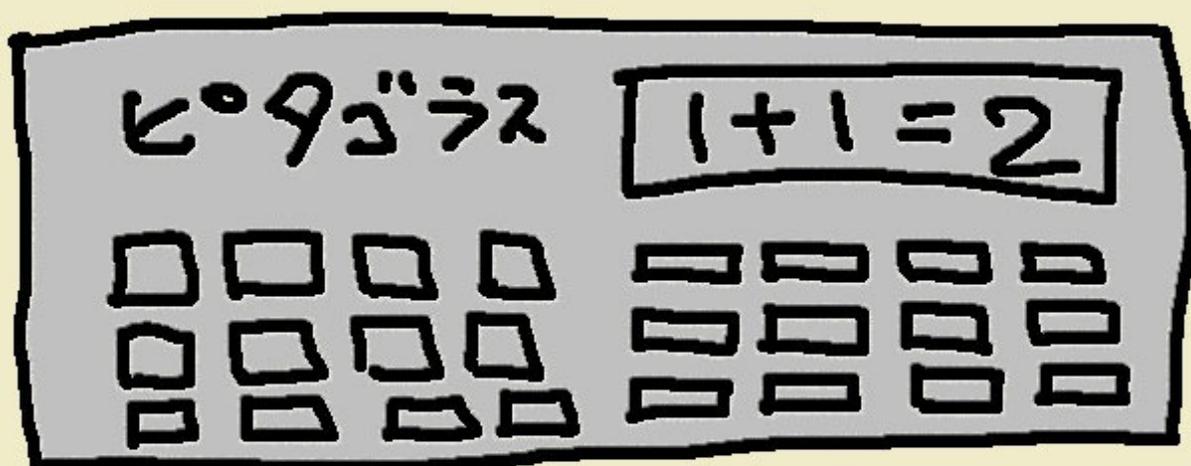
「はい、あります」

「それでは書類を郵送しますので手続きを取って下さい」

「はい、わかりました」

急遽、僕はD大学へ進学することになった。A君はE大学へ、B君はF大学へ進学した。

横長のタイプで
大体こんな感じ。

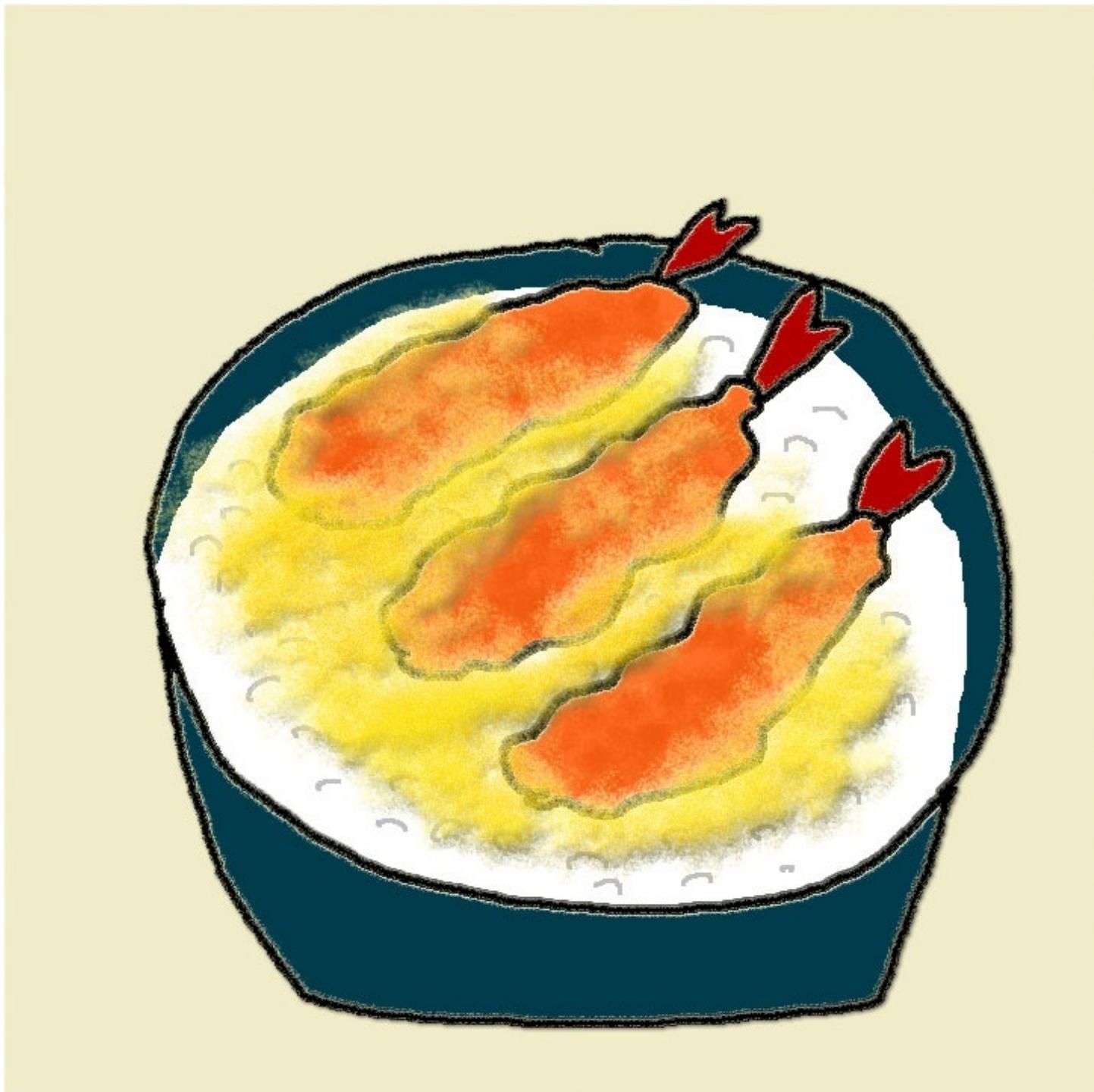


計算式の記憶が
できた。

《物理学実験》

僕はA君とペアを組むことになった。毎回二人で実験を行い、その次の回にレポートを提出しなければならなかった。実験はA君が全て行なった。僕は、「ここ押さえて」と言われたら押さえて「これ持って」と言われたら持っただけ。レポートはA君が全部書き、僕は写しただけで全然考えなかったなあ。お陰で単位は取れたが勉強にはならなかった。どんな実験をしたのか、殆ど覚えてない。唯一覚えているのは重力加速度の実験。A君は、最小二乗法やらなんやら、データを処理するのにシャープの電卓ピタゴラスを使っていた。僕も真似をして買った。殆ど使わなかったけど。秋葉原で石丸電気やロケット、あちらこちらの電気屋を廻って一番安い所を探

した。結局万世橋近くの角の石丸電気で買った。1万5百円だったと思う。A君は推薦入学で茨城出身、卒業して音響メーカーへ就職した。



《昼飯》

僕は学食の和定食が好きだった。鶏の唐揚げが何故か和風出汁に浸してあった。時々現れるエビフライ丼も好きだった。カツ丼のエビフライ版であるが、当時の自分には衝撃であった。しかし学食へは余り行かなかった。クラスみんなが学食ではなくカフェへ行くので、それに合わせてカフェへ行くことが多かった。帰国子女のK君や映画研究会のU君などがたむろしていたカフェは、都会的で洒落た感じがした。カフェで食べたのはミートスパゲッティ、マーボライス、ハンバーグカレー・・・日替わりランチがあった気もするが・・・あとソフトシェルのエビチリもあったと思う。値段はいくらだったのだろうか。もう好く覚えてない。奥の方にドリンクカウ

ンターがあった。

時には学校の外に出て昼食を取ることもあった。裏門を出て右に少し歩いた左側の地下1階にあったのがトンカツ屋O。御飯とキャベツがお代わり自由だった。ロースかつ1枚でドンブリ3杯を食べることもあった。今は絶対に無理。



《1年次の英会話》

授業時間の前半はL L 教室で受講して、後半は講読の教室へ移動して授業を受けていた。ある時、遅刻したのでL L 教室には行かず、独りで講読の教室へ行き、週間少年チャンピオンを読みながら待っていたら、やって来たM講師に怒られた。この単位を落とすと卒業できないことは分かっていたが、なぜか僕はその後の授業に出るのをやめた。

1年が終わる頃、「M講師が呼んでる」と知らせに来てくれたのは、確かN君だったろうか。M講師と話をし、レポートを提出することで単位が貰えることになった。N君は千葉出身、軽音楽

部に所属していた。「フュージョンをやっているんだぜ」と最先端を気取っていた。茶色いソフトケースに入れたベースギターを持っているところを見かけることが度々あった。ウオークマンをヘッドフォンで聞きながら歩いているところもよく見かけた。新し物好きだったのかなあ。大学院に進学した後、化学メーカーに就職した。

《体育》

必修科目だったと思うが、体育の授業があった。グラウンドで100メートル走、学外へ出て長距離走、体育館で体操、室内プールで水泳をしたのを覚えている。授業が終わって偶々H君と話をした時、H君も一浪で補欠入学であることを知った。H君は東京出身、卒業して大学院へ進学した。

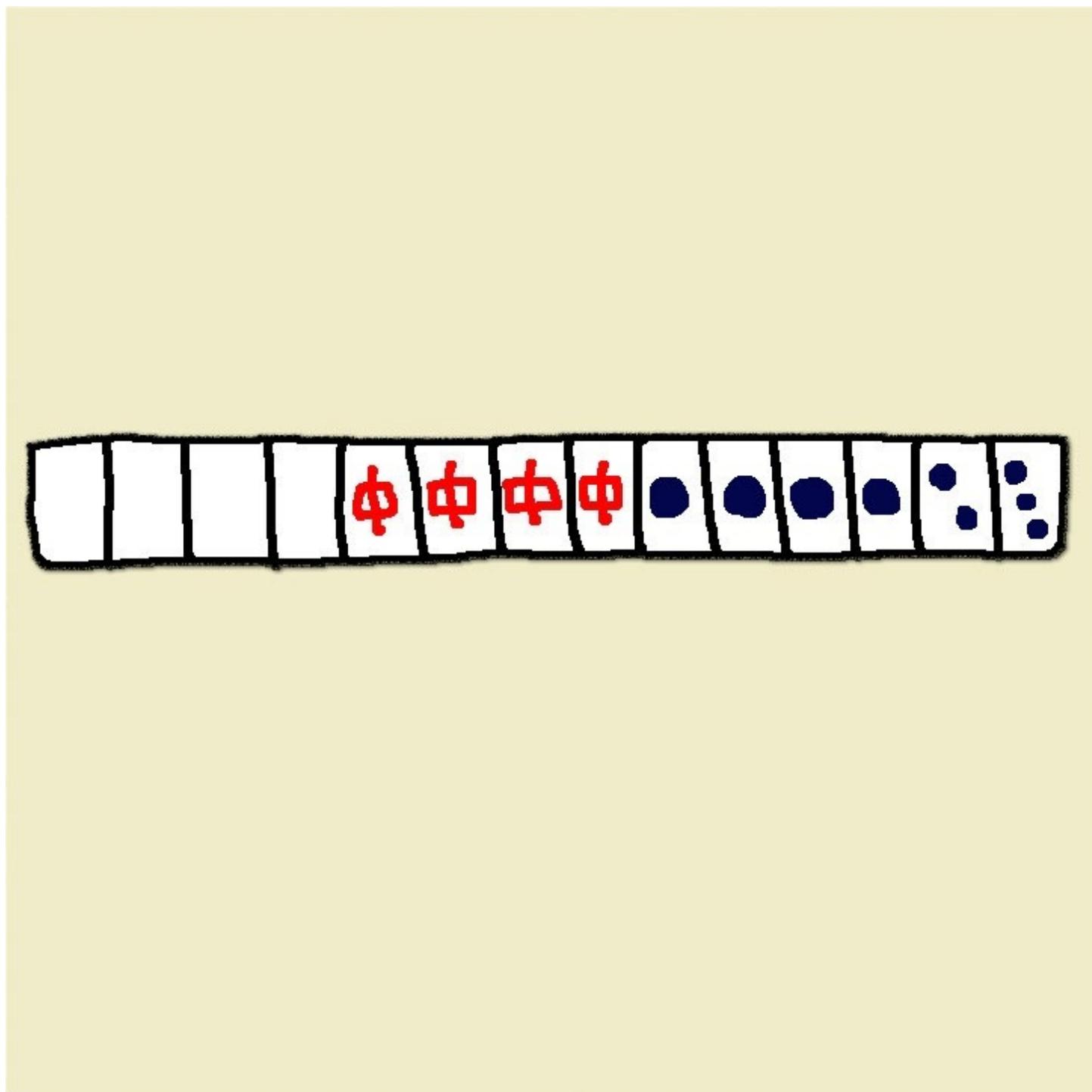
《女子学生》

クラスメイトに4人の女子がいた。一人は2年進級時に転科していった。

《文科系サークル》

A研究会に所属した。同学年にKさんとM君、1年上にT先輩、2年上にYさん、3年上にT先輩とTさんがいた。夏合宿で長野へ行ったことがあった。小海線に乗って小諸へ行った。誰かの知り合いの別荘だったと思う。哲学の問題をテーマにしたレポートを書いて発表したと思うが、内容は完全に忘れてる。

T輩はナイトクラブで弾き語りのアルバイトをしていた。「南こうせつの夢一夜を店で唄わなければならないことになったが聴いたことがない。知っているならチョット歌ってくれ」と言われて、歌ったことがあった。

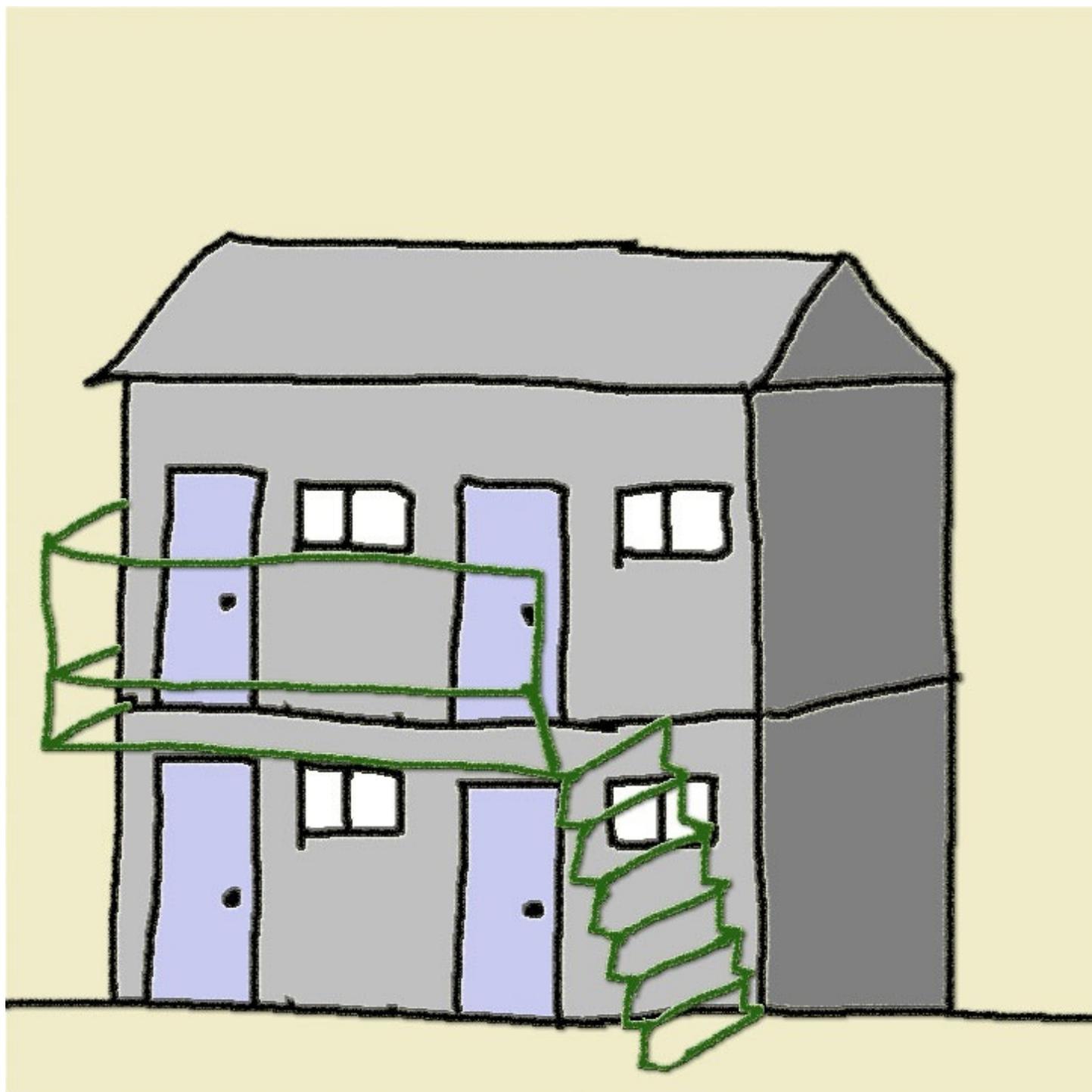


《2年次の英語講読》

テキストは、その頃一世を風靡したマンウオッチングの英語版だった。僕とA君とB君の3人は教室の一番前の席で、いつも授業を受けていた。僕はいつも前日に予習をして辞書を引いてテキストを和訳して授業に出た。A君とB君は全く予習して来なかった。僕の和訳を見て答えていたのである。僕はこの単位を落とした。それはまあいいとしても、納得いかないのはA君とB君が単位を取ったことだ。えー、なんでえー・・・

1年次のある時、3号館2階のロッカーの前のトイレで用を足していると、A君が隣りに来て「麻雀

は出来るか」と問い掛けてきたので「出来る」と答えた。この後、もう2人集めて、多分、雀荘Cへ行ったはず。A君とは卒業まで本当に好く麻雀をした。毎日のように面子を集めていた。楽しかった。A君は埼玉出身、テニスサークルに所属していたがテニスをする時間はあったのだろうか、今もって謎だね、卒業してコンピューター会社へ就職した。



《3年次の英語講読》

必修科目の英語講読の単位を落とした僕は、物理科の英語講読を再履修した。K君など6名ほどが英語講読を落として再履修していた。みんなで教室の一番前に陣取って授業を受けて一年後には何とか単位を取得した。

K君は小岩駅前のスーパーの先を左に曲がった所のアパートの2階に下宿していた。たびたび数人でK君のアパートへ泊りがけで遊びに行った。風呂なしだったので風呂は近くの銭湯へいった。K君はバンド活動をしていた。「コンサートをするから見に来て」と言われて、新宿ジャムまで

見に行ったことがある。バンドの代表曲は「SHD」。K君は静岡出身、卒業して家電メーカーに就職した。



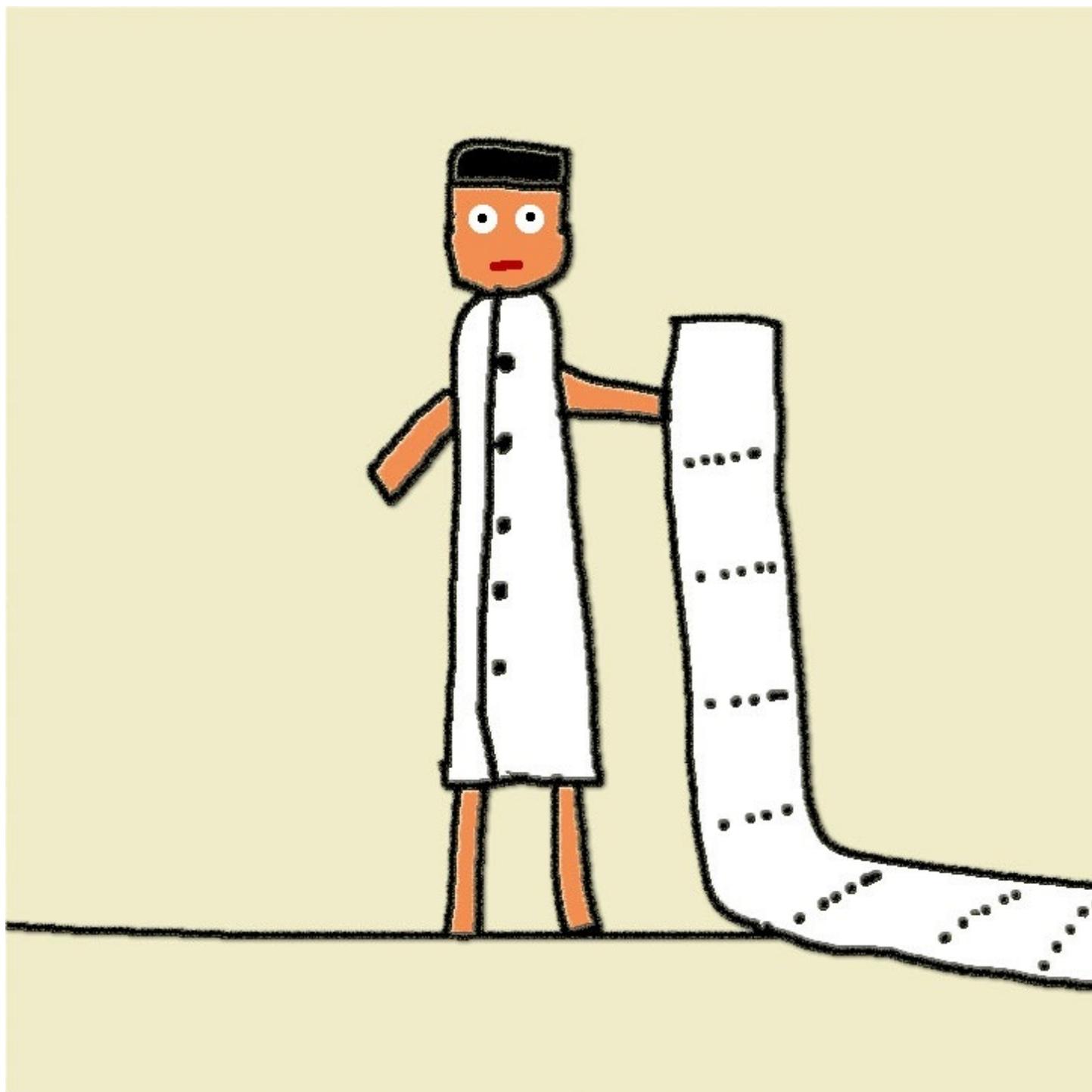
《ドイツ語》

1年次のドイツ語の単位を落とした。A君も落としたので、土曜日にあったドイツ語の授業を2人で再履修した。

A君とは日比谷野外音楽堂へロックコンサートを見に行った事がある。美空ドレミのビジネスが出演していたのを覚えている。池袋演芸場へ行ったこともある。出演者は、たけし軍団だった。演し物は放送禁止ネタのオンパレードだった。客の一人が真に受けてしまい、軍団に向かって怒りだした。ダンカンがシドロモドロに言い返していたと思うが、その後どうなったか、思い出せ

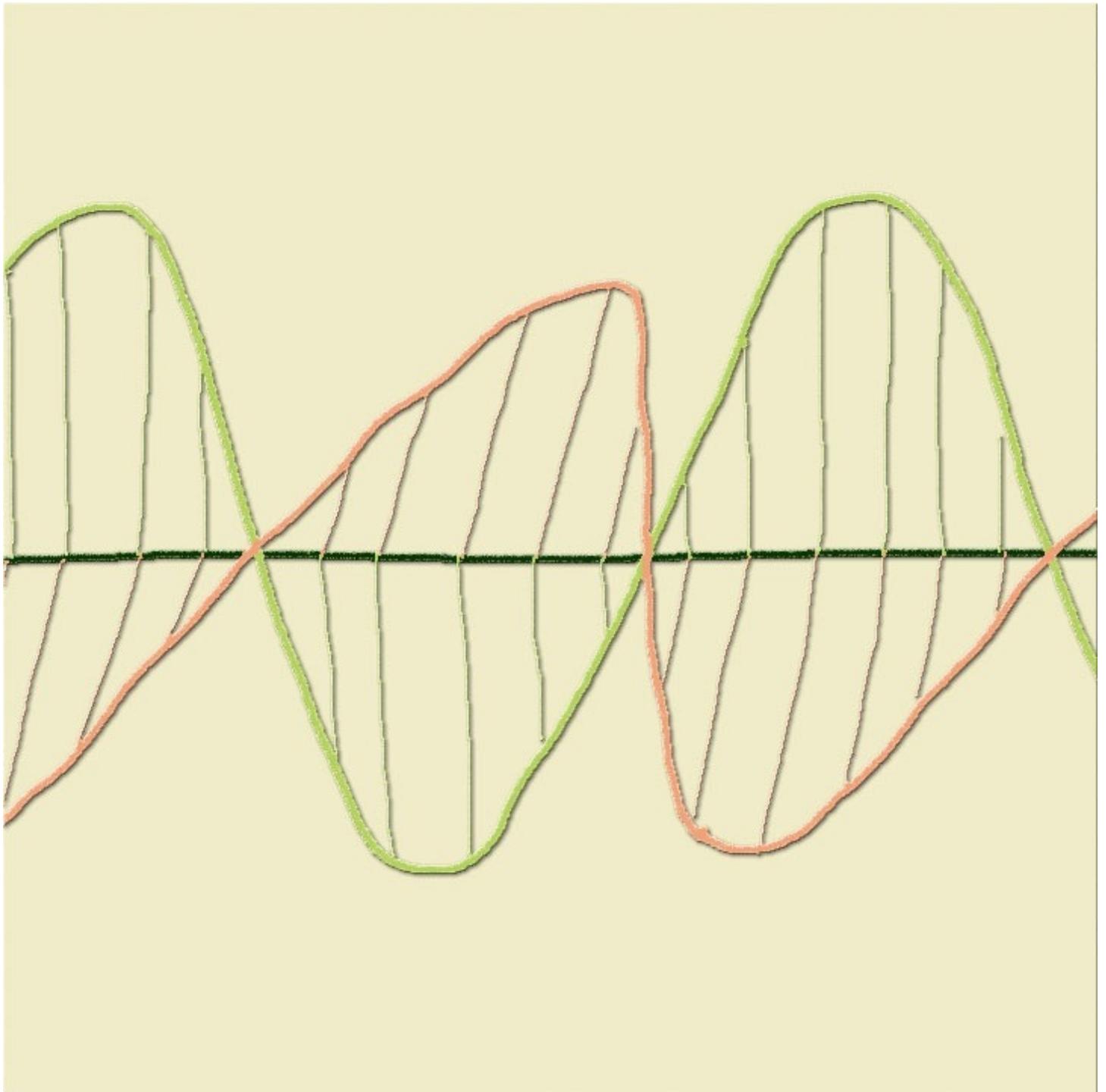
ない。上演中止になったような気がする。A君は東京出身、卒業して照明器具メーカーへ就職した。

或る時、休み時間に2人で並んで座っていたところ、後ろの席に座っていた学生が声を掛けてきた。「麻雀は出来るか」と訊くので「出来ると」答えた。1学年上のM先輩だった。あと一人を見つけて雀荘へ行った。M先輩は、大学院に進学した。しばしばM先輩と麻雀をするようになった。



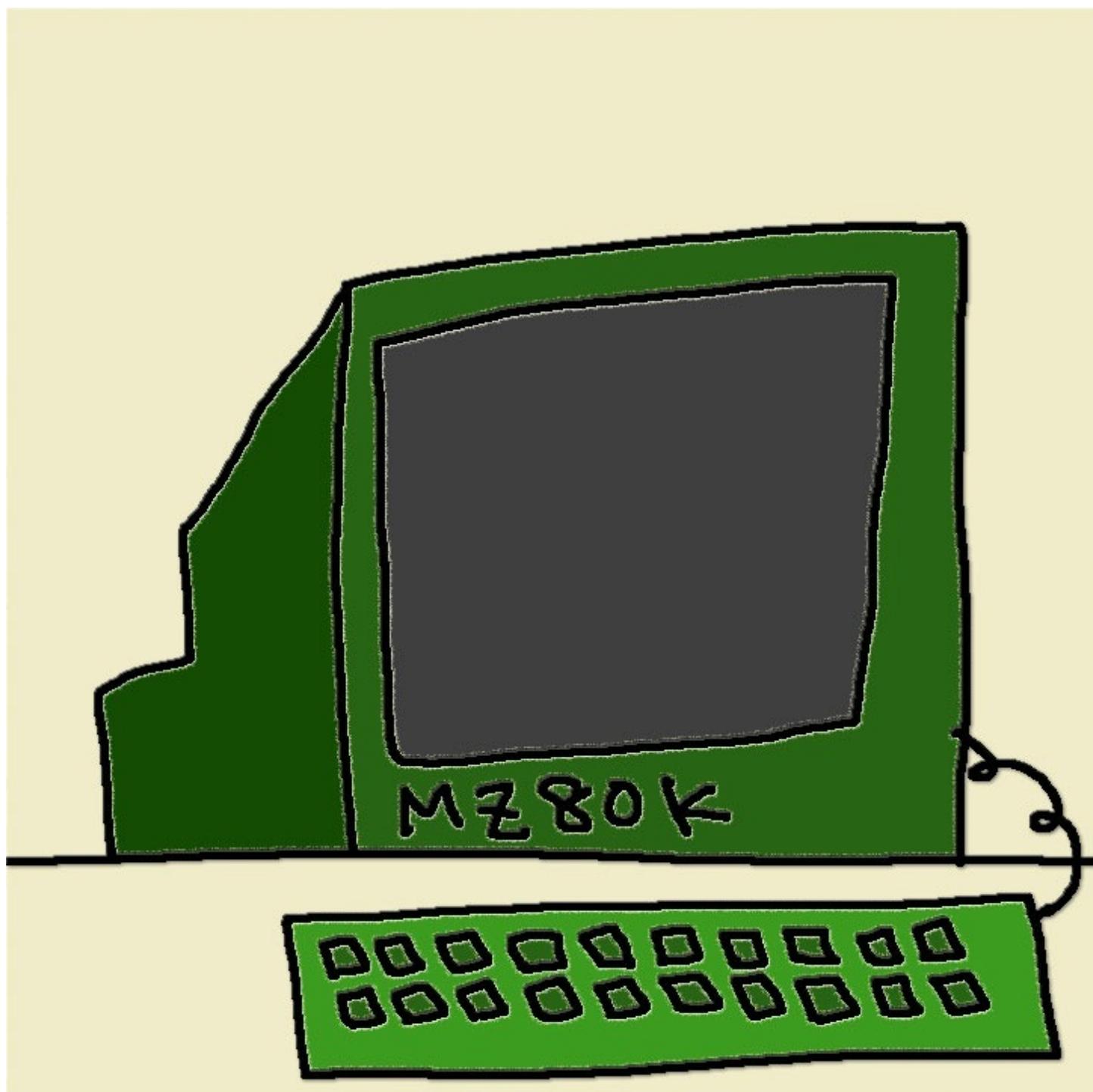
《フォートラン》

プログラミングの選択科目を履修した。一緒に受講したI君がプログラムを組んだ。マークシート方式のパンチカードでプログラミングして計算機室へ持って行き、白衣を着た係員に渡して計算結果を出してもらった。シンタックスエラーだらけでなかなかバグをクリアできなかった。尤も、僕はI君のプログラムを写していただけ。I君は茨城出身、卒業して家電メーカーに就職した。I君から電子回路か通信工学の参考書を借りたが、返さずに卒業してしまった。いつの間にか無くしてしまった。申し訳ない。



《電磁気学》

通年で4単位の授業だった。電磁気学を落とすと必修科目の時間割の関係で留年が決定してしまうのであった。僕達の成績は非常に悪く、このままでは殆どの学生が留年してしまう状況になっていた。担当のN教授は急遽、前期後期の2単位ずつに分けた。僕も、前期か後期か忘れたが、2単位貰えて留年せずにすんだ。



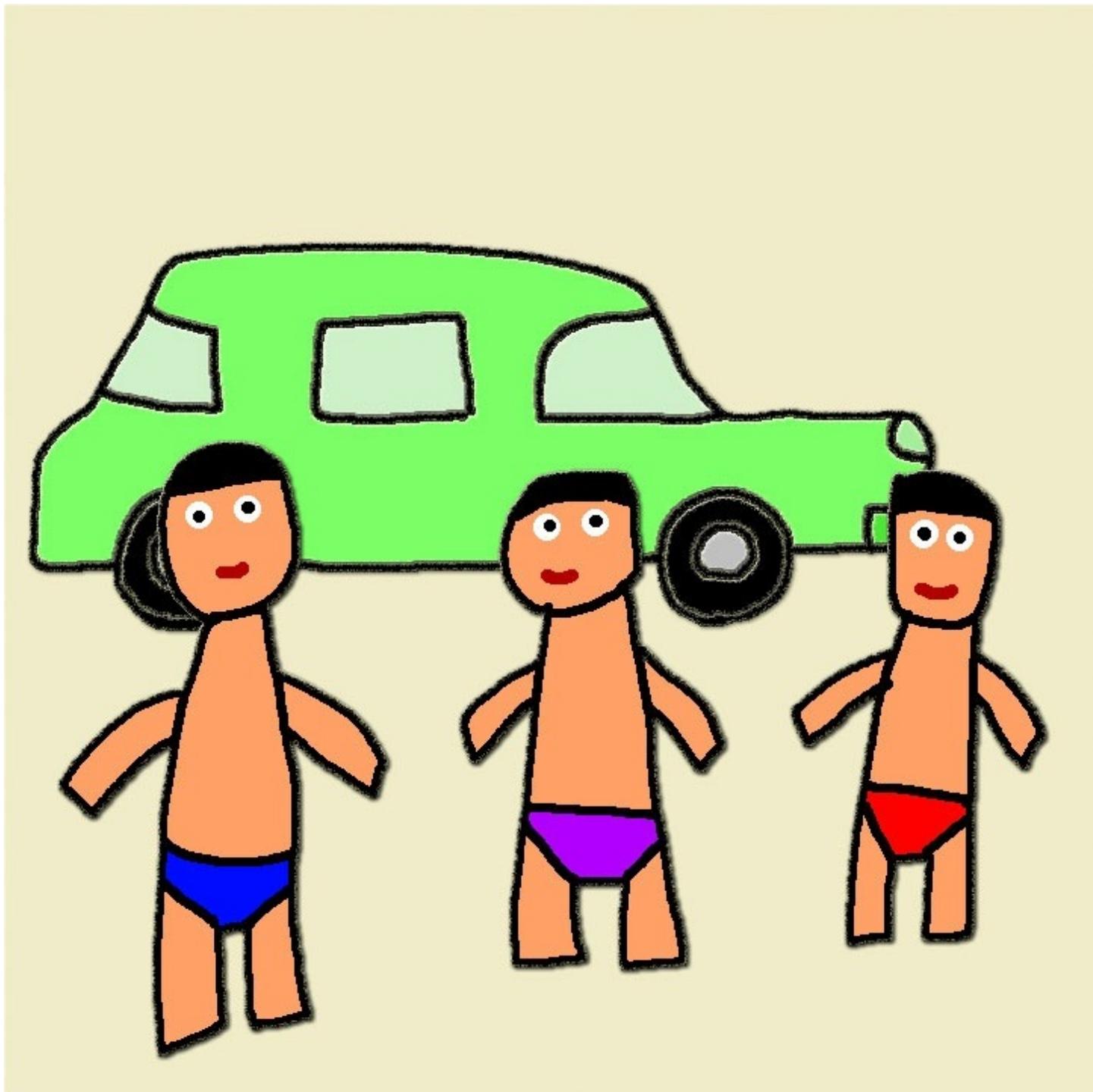
《電気工学実験》

4人位のグループで実験をしてレポートを提出した。IからIVまでであったと思う。僕は他人のレポートをいつも写していた。自分では何もしなかったので、何をやったか殆ど覚えていない。覚えているのは自分でレポートを書いた実験が二つほど。

ひとつは、Z80の機械語で二桁の足し算のプログラミング。多くの学生が繰り上がりの処理をプログラムできずにいた。担当教員は「二桁が無理だったら一桁でも良い」と言って、ハードルを下げてくれた。僕はZ80の参考書をA君から借りて一桁のプログラムをなんとか作る事が出

来た。A君は福島出身で西武線沿線に下宿していた、卒業して事務機メーカーに就職した。

もうひとつは、方眼紙にトランジスタの設計図を書いたこと。



《海水浴》

81年か2年の夏、僕とA君とB君とK君の4人で勝浦へ海水浴に行った。K君の車で行った。二泊三日だったか、民宿に泊まった。快晴続きで海水浴日和だった。僕は、白いコパトーンを使ったはずだが、真っ赤に日焼けして殆んど火傷状態になった。K君は東京出身、卒業して銀行員になった

82年か3年の夏、僕とC君とT君の3人で九十九里海岸へ海水浴へ行った。T君の車で行ったが、故障したので路上に停めたまま電車で帰った。T君は神奈川出身、卒業して通信機メーカーに就

職した。T君とは帰り道が同じ方向だったので、よく一緒に帰った。



ルールとか全く覚えてません

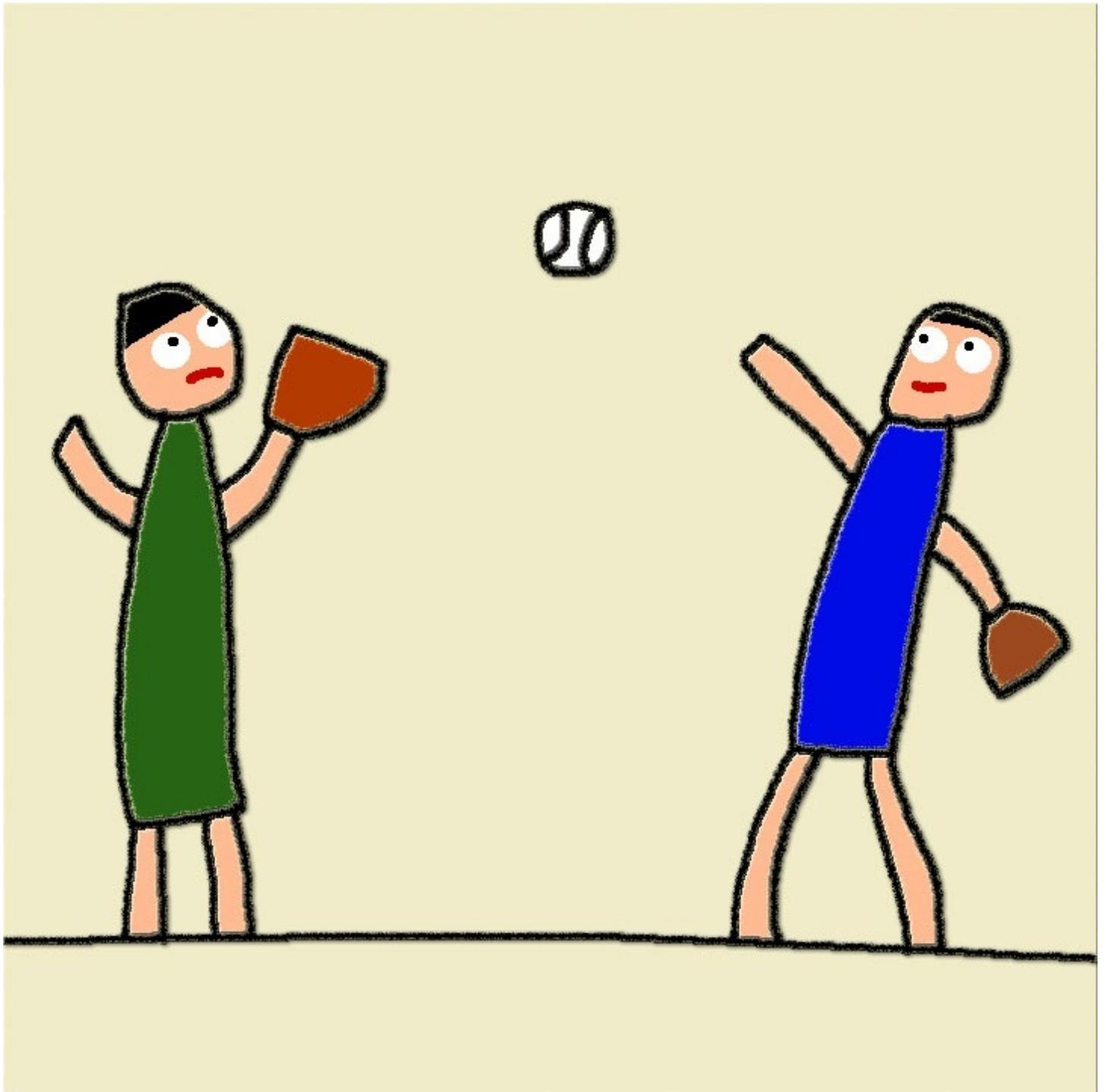
《内部選考》

大学院へ進学しようと思った。内部選考に応募したが、成績が悪く不合格。受験勉強をする気にはならず、就職することにした。

《卒業研究》

〇研究室は3号館2階、事務室の隣りにあった。電気材料の研究室。僕の卒業研究のテーマは固体電解質の電気伝導特性。クラスメイトの6人が在籍した。その中にA君がいた。A君は神奈川出身、卒業して計測器メーカーへ就職した。30歳くらいの時、A君が訪ねてきて鶴見駅近くでビリヤ

ードをした。その頃プールバーが流行っていた。



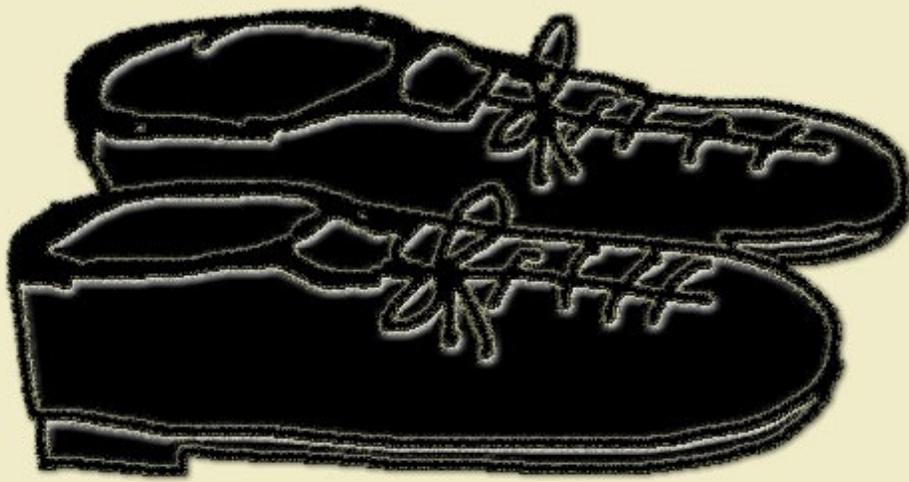
《K研究室》

4号館の1階にK研究室はあった。地下1階だったかもしれない。4号館の裏でH君達数人で時々キャッチボールをした。H君はTK80を使ってICをコントロールするプログラムをしていたと思う。H君は東京出身、卒業してIT企業に就職して、直ぐに独立した。



《N研究室》

4号館の2階にN研究室はあった。或る時、N研究室に行くと、A君とB君が「電圧を逆に掛けて、秋葉原で5万円で買った卒研に使うLSIを壊した」と言って、そのLSIを机の引き出しから取り出して見せた。なぜ僕に見せたのだろうか、それより、どうやって卒業論文を書いたのだろうか。よく卒業できたものだ。A君は青森出身、卒業してデジタル機器メーカーへ就職した。B君は自称サーファーで神奈川出身、放送局へ就職した。



「ちょっときつい」と言ったら、
「革は伸びます」と店員に
言われて、24.5cmを買って
しまった。全く伸びなかった。

《就職活動》

K君とリクルート用のスーツを花菱へ買いに行った。靴は新宿のワシントン靴店で買った。K君は栃木出身、卒業して出版社に就職した。

1983年7月第一精工舎の入社試験、最終面接まで進む。結果は不合格。

1983年8月O教授に紹介してもらい、大日本印刷の入社試験を受ける。結果は不合格。

1983年9月就職情報誌で見つけた石油探査会社シュルンベルジェワイヤーラインサービスの入社面接に行く。結果は不合格。

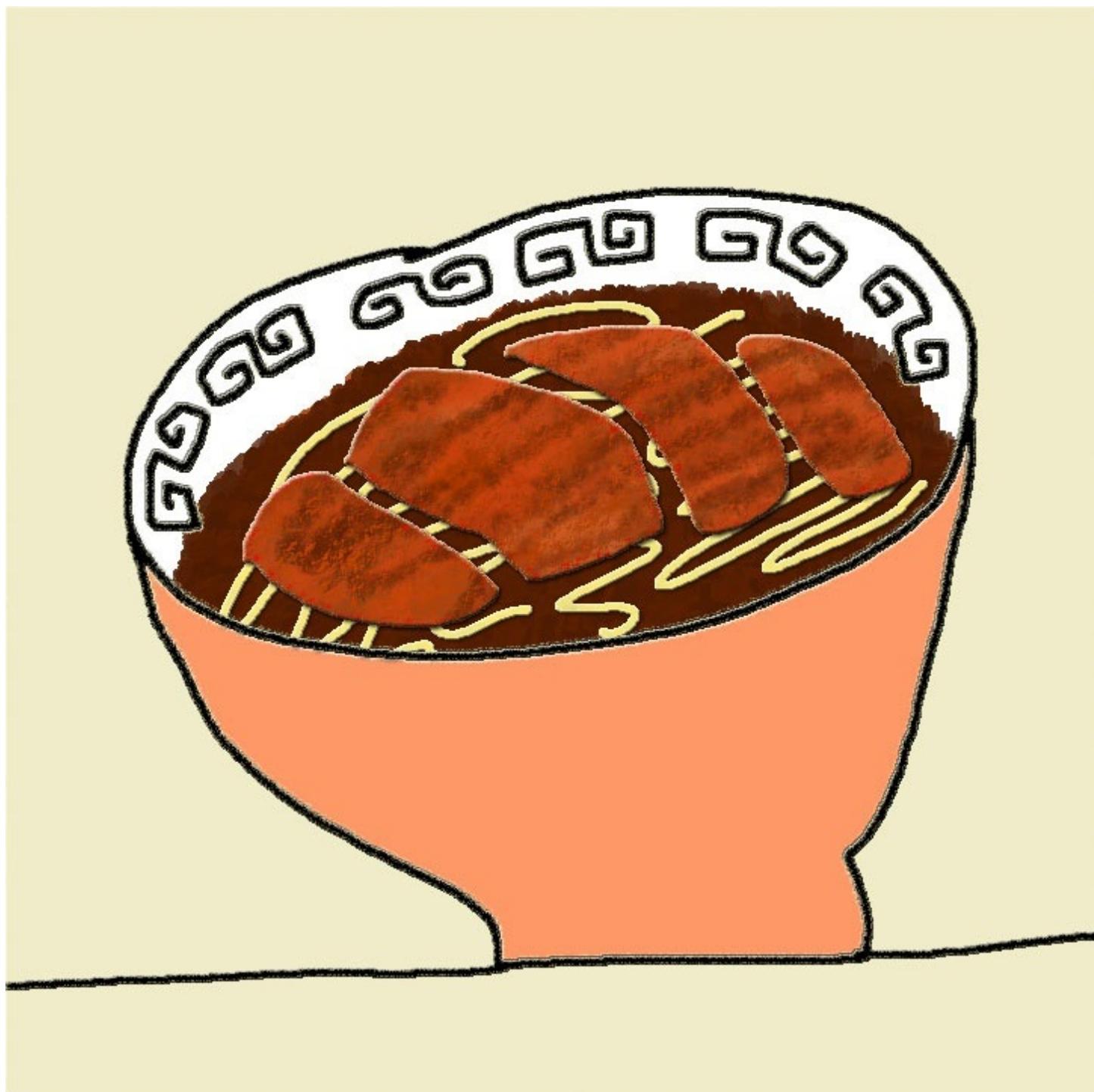
1983年9月ソニーケミカルの入社試験を受けに鹿沼工業団地へ行く。結果は不合格。

1983年10月N研のK助手に紹介してもらった公益法人A協会の入社面接に履歴書を持って行く。

1983年10月CSKの会社説明会に行く。帰り際、別室に呼ばれていきなり内定を出すと言われたが、「親に相談してみます」とだけ言って帰って、暫くしてから断りの電話をした。

1983年12月頃、公益法人A協会から、健康診断に問題が無ければ採用する旨、連絡があった

1984年1月頃、丸の内のNビルディングのクリニックで健康診断を受ける。



《合宿免許》

卒業式のあと、1984年2月に合宿で自動車免許を取るために、A君と那須の自動車学校へ入校した。泊まったホテルの食事は魚ばかりだった。ホテルの食事に不満を持った僕らは、ラーメン屋へ行って、バーコー麺を食べたことがあった。「美味しい」と思った。A君は神奈川出身、通信機メーカーに就職した。3月の末に二俣川の試験場で免許を取得した。一度も運転をしたことのないペーパードライバーなので、ゴールド免許です。



《初入社》

1984年4月2日、僕は公益法人A協会に初入社する。事務所は丸の内のおフィスビルの9階にあった。半年ほど、オンザジョブトレーニングで所属部署の仕事を一通り学んだ。同期入社の人B君は名古屋出身、C大卒、一年留年をしているので同い年だった。

《英語》

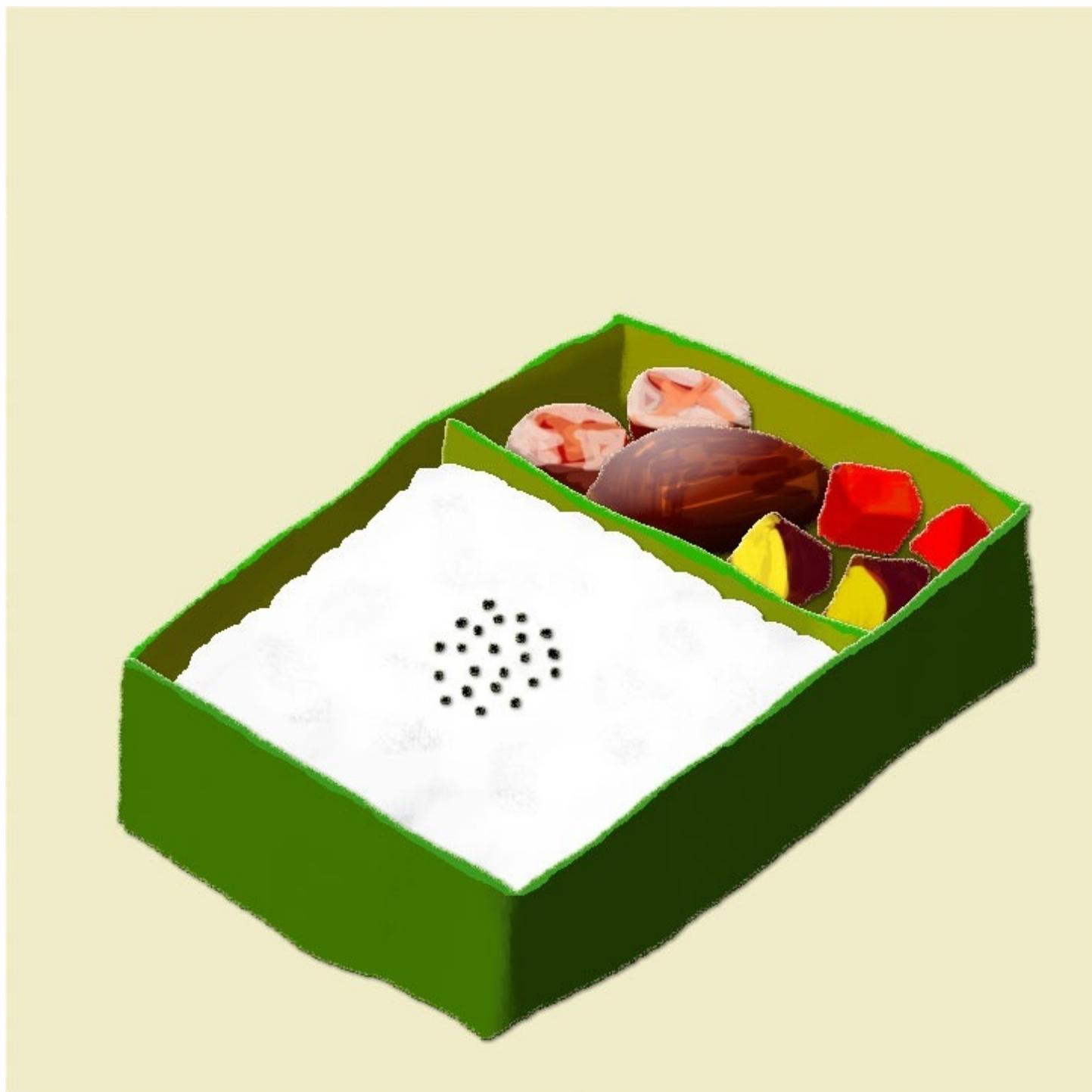
社内文書は全て英語だった。一日中、英和辞典を引いていた。

《電卓》

強度計算用にカシオの電卓が支給された。僕は自分のピタゴラスを使ったので、カシオの電卓は全く使わなかった。90年頃には事務所にパソコンが導入されたので、表計算ソフトを使うようになった。初めはロータス123、しばらくしてエクセル。

《ビジネスファッション》

メンズクラブ誌の別冊として、ジャケットやYシャツやネクタイ等々の解説書が発行された。シリーズ全冊買って読んだ。



《人事異動》

1984年、電気・制御システムの担当になった。

1988年、ボイラー・圧力容器の担当になった。材料力学の参考書を買って勉強した。

1991年、内燃機・タービン・減速機・軸系の担当になった。自分は機械工学に向いていると思った。

《事務所移転》

1984年10月、九段に自社ビルを建てて移転した。

1986年6月、自社ビルを売却して、横浜駅東口近くのオフィスビルの4階に移転した。

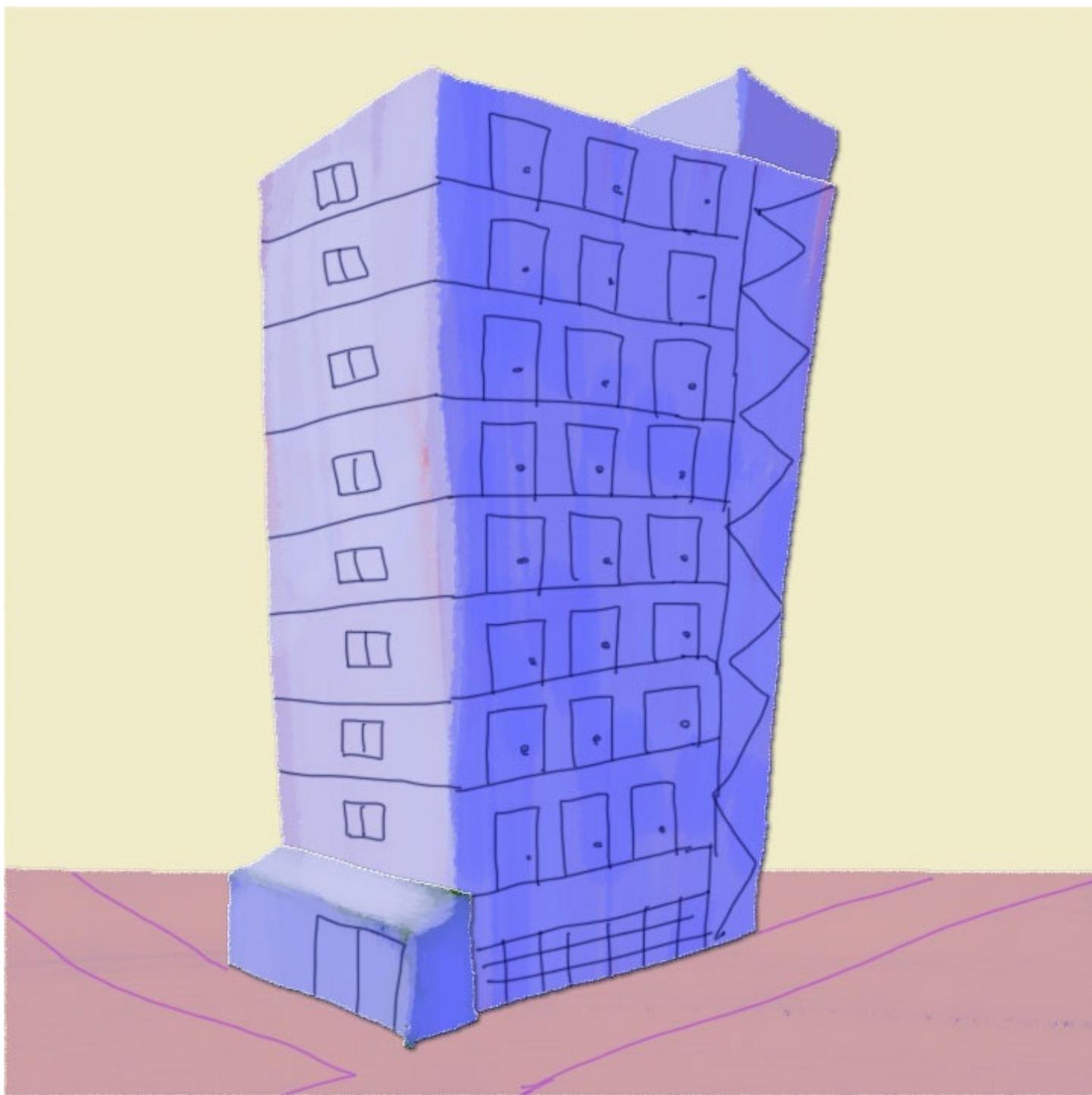
1995年4月、京急神奈川駅近くのオフィスビルの4階に移転した。

《昼飯》

丸の内では、仕出し弁当を食べていた。

九段では、出前を取ることが多かった。

横浜では、事務所の外へ食べに出た。スカイビルの最上階の回転するレストラン、建て替えた後は「戎」、「大陸飯店」、モアーズの「餃子屋台」、シャルの「つねてい」、ポルタの社員食堂などへ行った。



《鶴見Sマンション》

1986年、京急花月園前駅近くのワンルームマンションを借りて引っ越した。

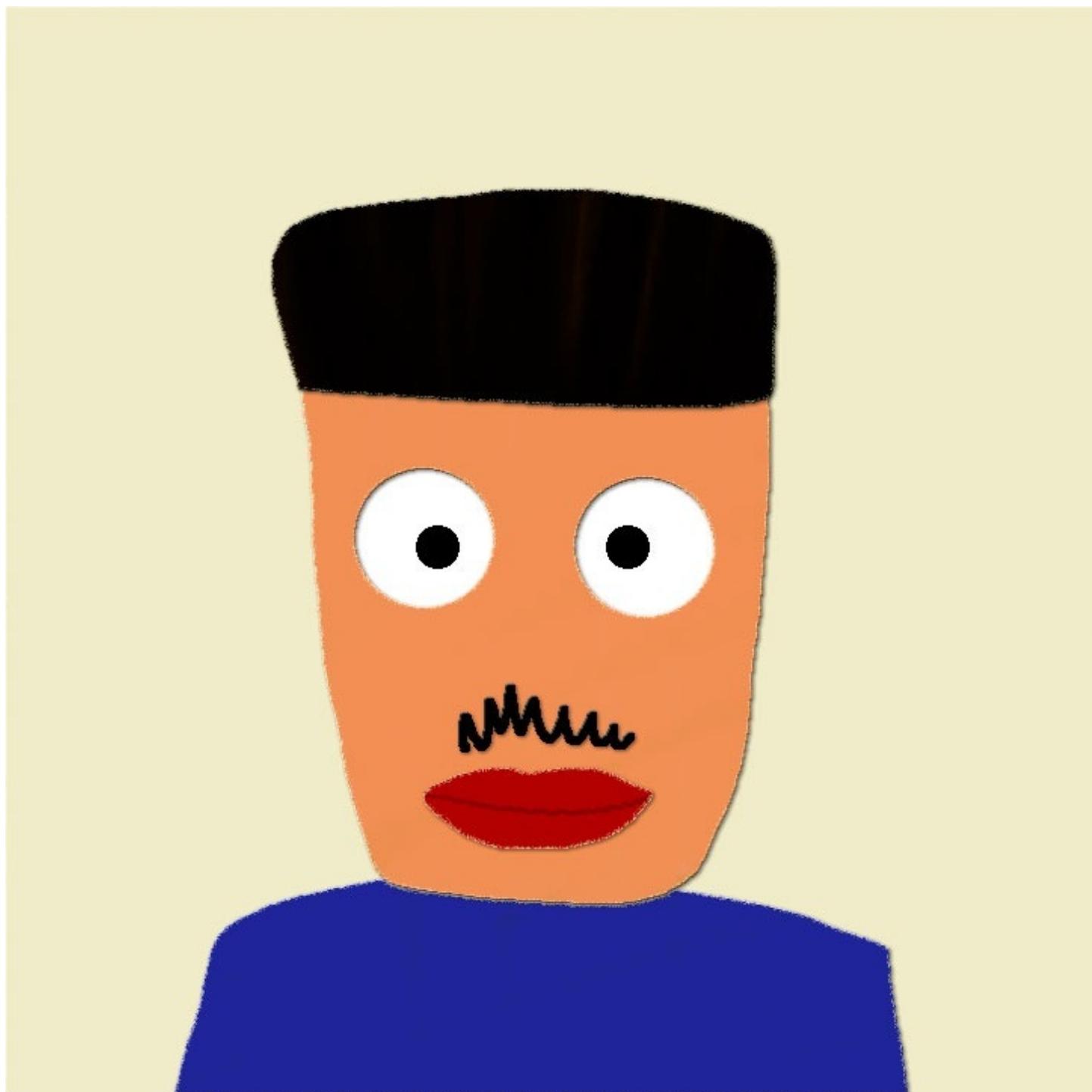
《買い物》

毎日、横浜駅西口のダイエーか、鶴見駅前の西友で夕飯の買い物をして帰宅した。



《飯倉片町》

A先輩と飯倉片町のナイトクラブへ行った。白いステンカラーのコートを忘れて帰った。A先輩は大阪出身、1987年に証券会社に転職した。



《大学の同窓生》

A君の幹事で数人が集まり新宿辺りで毎年忘年会を開いていた。

1990年頃、六本木の防衛庁の近くで同窓会を開いたことがあった。B君が幹事だったと思う。怪しげなチョビ髭を生やしていた。1996年からC君宅で忘年会をするようになった。



《時計》

5000円位の時計を時々買った。10個くらい溜まってしまい、安い時計を幾つも買うのは無駄な気がしてきた。一生モノのつもりで、ちょっと高級な時計を横浜のアリック日進で買った。今でも使っています。

《楽器》

1987年、ミニ鍵のヤマハポータサウンドを買った。

1988年、カラオケの入ったROMに従って鍵盤が光るカシオトーンを買った。「これは画期的な

機能だ」と思い購入したが、光ってから手を動かしても遅いことに気がついた。

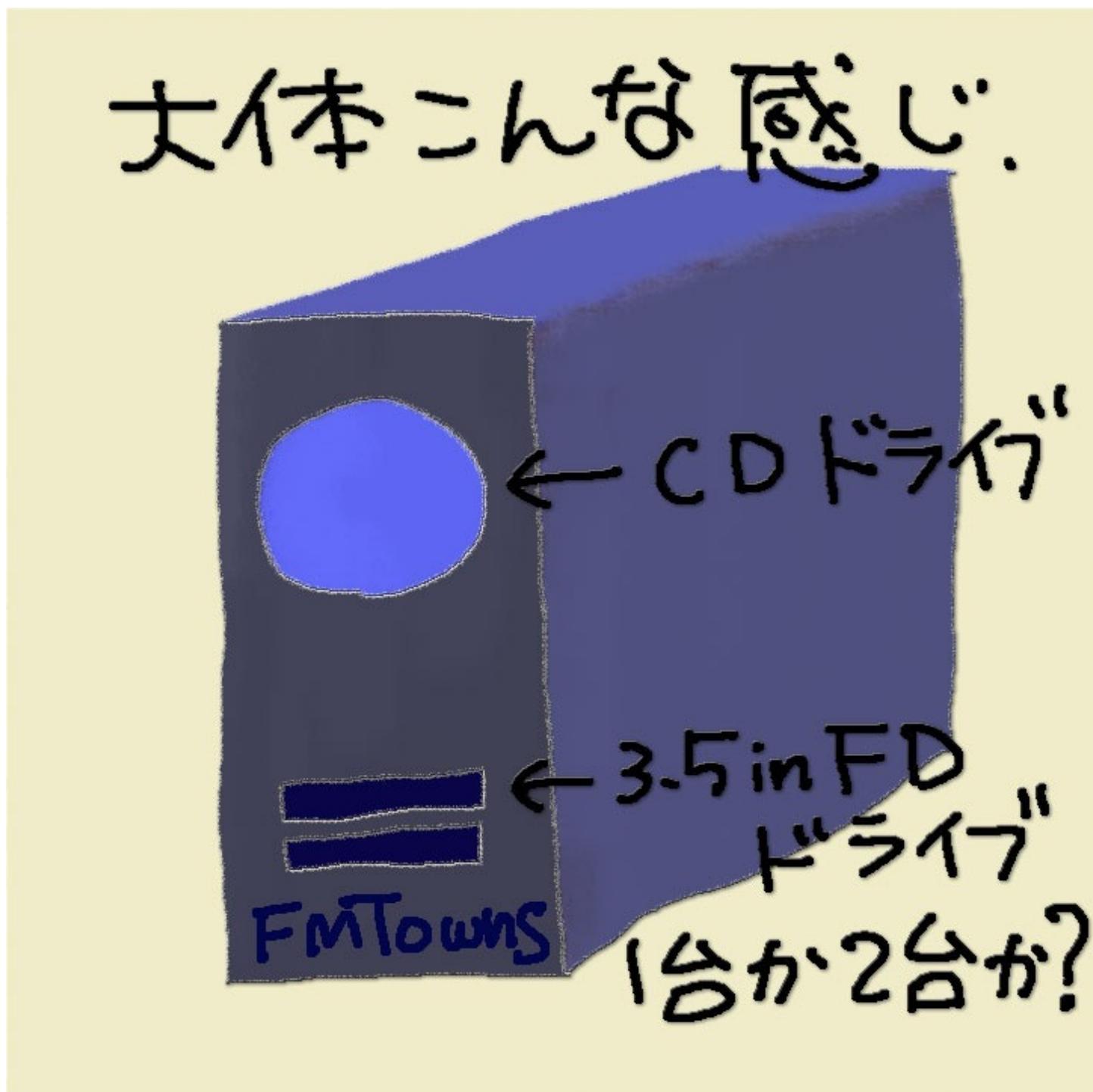
1989年、タッチレスポンス機能付きのポータサウンドを買った。独学で結構弾けるようになった

・
1990年、テレビでアントニオ古賀の演奏を聴いて、クラシックギターを買った。弾けるようにならなかった。

1995年、テレビで田中健の演奏を聴いて、、ケーナを買った。1オクターブしか出せなかった。

1996年、木製のソプラノリコーダーを買った。ドより下が出ないことに、あらためて気づいた。

1997年、クロマチックハーモニカを買った。手入れが面倒だった。



《HPUX》

事務所に横河ヒューレットパカードのワークステーションがあった。AT&Tが発行したUNIXの解説書を有隣堂で購入して勉強した。

《パソコン》

1989年4月、アリック日進でFMTownsを購入した。プリンタなどを含め総額50万ほど支払った。関東電気から発売予定だったCコンパイラはついに発売されなかった。何度か電話で発売日を尋ねたが、ハッキリしなかった。もしかしたら初めから発売する気は無かったのかも知れ

ない。

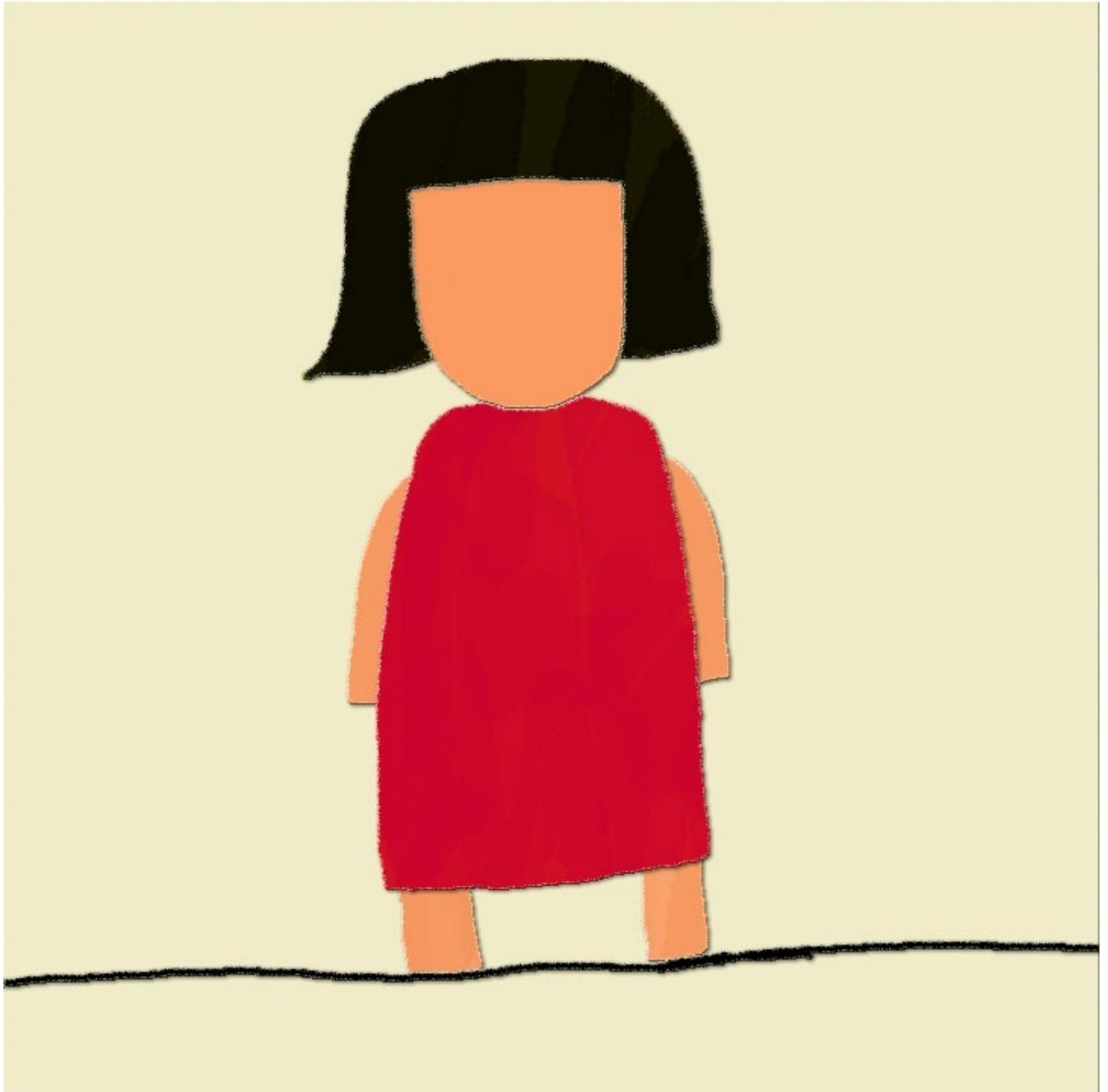
1990年6月、白いダイナブックを購入した。20万円弱支払った。TurboCも購入した。

1990年12月、マッキントッシュClassicをゼロワンショップで購入した。40MBのハードディスクを含め20万円くらい支払った。ThinkCも購入した。

1996年、パフォーマ5320をゼロワンショップで購入した。メモリを32MBに増設して30万円あまり支払った。

《CGソフト》

1996年、パフォーマ5320用にCコンパイラを買うため、ソフトウェア販売店に行った。その時、Cコンパイラを買わずに、たまたま目についたCGソフト「スマートスケッチ」を衝動買いした。そのあと直ぐにワコムタブレットがバンドルされている「アートスクールダブラー2.0」を買った。暫くして「カラーイット!3.0」とプラグインソフトの「ペイントアルケミー2.0」「KPT2.0」「WRSSK」を購入した。CGソフトの性能がとても進化していた事に、非常に驚いた。本腰を入れてCGの制作を始めた。Cコンパイラの事はスッカリ頭から消えた。



《見合い》

30歳代の前半に何度か見合いをした。

1990年夏、同い年のAさんを紹介される。コンピューター関連の仕事をしているとのことだった。
B駅改札口で待ち合わせた。Cデパートのレストラン街のフランス料理店へ行った。

1991年頃、静岡在住のDさんを紹介される。E駅で待ち合わせた。中華街へ行った。

1992年10月、Fさんを紹介される。G駅で待ち合わせた。駅ビルの天ぷら屋へ行った。

1993年9月、H社を辞めて福祉関係の職に就くために勉強中のIさんを紹介される。J駅で待ち合わせた。Kタワーへ行った。



《CG検定》

1996年、キャノン通信講座を受講してから、CG検定3級を受験した。

《講談社KFS》

1997年、TVブロスのイラストコンテストに作品を送ったところ、講談社KFSから一次選考を通過したので講評会に来ないか、と通知が来た。

《ACC》

1998年から1999年、横浜の朝日カルチャーセンターでデッサンの講座を受講した。

《退職》

1999年10月、公益法人 A 協会を退職した。

《未完》

後書き

CG画像：

次の画像処理ソフトウェアを使用しました。

- ArtRage 3 Studio Pro アンビエント社
- Photoshop Elements 10 アドビシステムズ株式会社

著者：

茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します。

2004年より活動を始めたフリーランスのライター&イラストレーターです。

作品が社会の進歩に多少なりとも寄与することを願いながら、日々制作を行なっています。

また、下記WEBサイトに於いても、デジタル作品を公開しております。

- YouTube （動画共有サイト）
- Google+ （ソーシャルネットワークサービス）
- 楽天Kobo電子書籍ストア （ネットショッピングサイト）

その他：

製品名等はメーカー等の登録商標等です。

本書は著作権法により保護されています。

2016年5月30日発行

思い出話もしくは個人的な備忘録（ベータ版）

<http://p.booklog.jp/book/107352>

著者：茜町春彦

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/107352>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/107352>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ